

無名山塾・遠足倶楽部会員の皆さんへ



これは、もう1ヶ月も前の話です。この写真を撮影したのは、先月22日です。上野公園のソメイヨシノです。上野広小路側の入口から大噴水広場にかけての桜並木（さくら通り）の半分以上の樹に花が咲いていました。もちろん春のような満載の花ではなく、チラホウといった咲き具合です。先日もチェックしてみたのですが、まだ少しですが咲き残っていました。

例年この時期は、桜の紅葉が楽しめる頃です。しかし、花をつけた樹は、ほと

んどが落葉しています。花を咲かせた樹の中には、緑の葉を出しているものもあります。ですから今年の上野公園のさくら通りの紅葉は、余り楽しめない寂しい姿です。

専門家によれば、桜は7、8月にかけて花の芽ができる。葉が残っているうちは花の成長を抑える植物ホルモン「アブシシン酸」が葉から送り込まれるが、葉が落ちた後は供給が止まり、気温が上がると秋でも花が咲くことがあるという。（東京新聞）

要するに何らかの理由で葉が落ちて、ソメイヨシノは季節を間違えてしまったというわけです。これも、地球温暖化の影響なんでしょうか。ちなみに上野公園の紅葉は残念でしたが、谷中墓地のソメイヨシノは例年と比べてもいい紅葉を楽しめます。

と、身近な下界の話題でした。次の話は、「原三角点」です。現在の三角点は「国土地理院」によって管理されていますが、戦前は陸軍陸地測量部の管轄下にありました。映画「点の記」にも描かれていました。しかし明治に始まった三角測量は、当初内務省地理局によって行われ、その際に設置されたのが「原三角点」です。それらの大半は、陸軍陸地測量部によって処分されてしまったため現存が確認されている「原三角点」は、3ヶ所のみで、貴重な文化資産といえます。そんな3ヶ所の「原三角点」、5月に新潟の米山、11月には雲取山、白鬚岩と一年間でコンプリートです。自己満足ですが。もっとも山登りしたいが自己満足の行為ですが。

さて、遅くなりましたが2023年1月の確定表をお送りします。年初めはいつも通り「高尾山de初詣」から始まります。山頂お汁粉で新たな年の山歩きを展望しましょう。初詣登山をもう一つ。丹沢の大山です。若干軟弱と言われるかもしれませんが、往復ケーブルカーを利用した周回コースで歩きます。東側からの富士山展望は後日に譲るとして、南→西→北と姿の違う富士山を楽しみます。愛鷹山塊の越前岳からは南側からの迫力ある富士山を展望します。西側からの富士山は、長者ヶ岳です。東海自然歩道が通る山頂です。北側からの富士山展望は、三つ峠からです。これらは準冬山ですが、比較的暖かな陽だまりハイクもあります。三浦半島の最高峰の大楠山です。冬の澄んだ大気で、富士山だけでなく伊豆半島から箱根、伊豆大島、房総半島などの大展望が楽しめます。1月は「富士山の見える山」が満載です。もちろん冬ならではのスキーを楽しむ会は、今年も健在です。霧ヶ峰高原のブランシュたかやまスキーリゾートです。

皆様のご参加をお待ちしています。  
それでは皆さん、また山でお会いしましょう！